

ストップ温暖化

埼玉ナビゲーション2050 **改訂版**

埼玉県地球温暖化対策実行計画

概要版



埼玉県のマスコット コバトン

計画見直しに当たって

埼玉県では平成21年に「ストップ温暖化・埼玉ナビゲーション2050」を策定し、目標設定型排出量取引制度など先進的な取組を進めてきました。

平成23年3月には東日本大震災と津波により東京電力福島第一原子力発電所の事故が発生しました。その後の原子力発電所の停止は、省エネの徹底やエネルギーの地産地消の重要性など人々のエネルギーに対する意識の大転換をもたらしました。

このような背景をもとに、このたび、「ストップ温暖化・埼玉ナビゲーション2050」の中間見直しを行い、計画を改訂しました。

地球温暖化にストップをかけ、持続可能な社会を未来に引き継ぐため、皆様の御協力を心からお願い申し上げます。



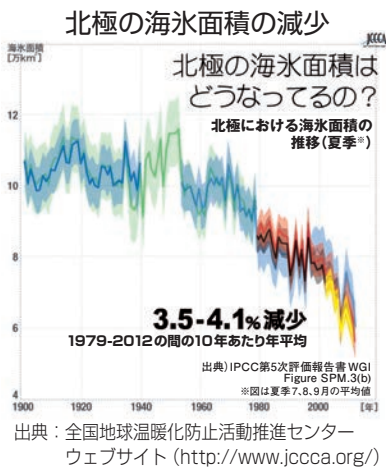
平成27年5月

埼玉県知事 上田清司

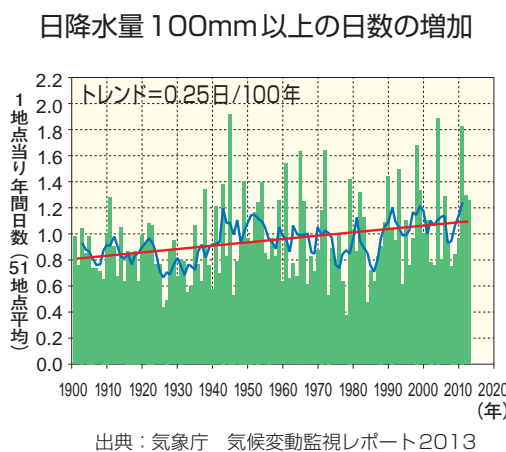
地球温暖化の現状

●人間活動を原因とする温暖化が地球規模で進行し、様々な影響も出始めています。

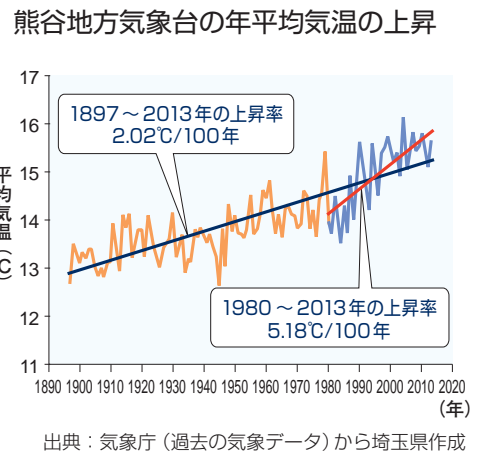
世界では



日本では

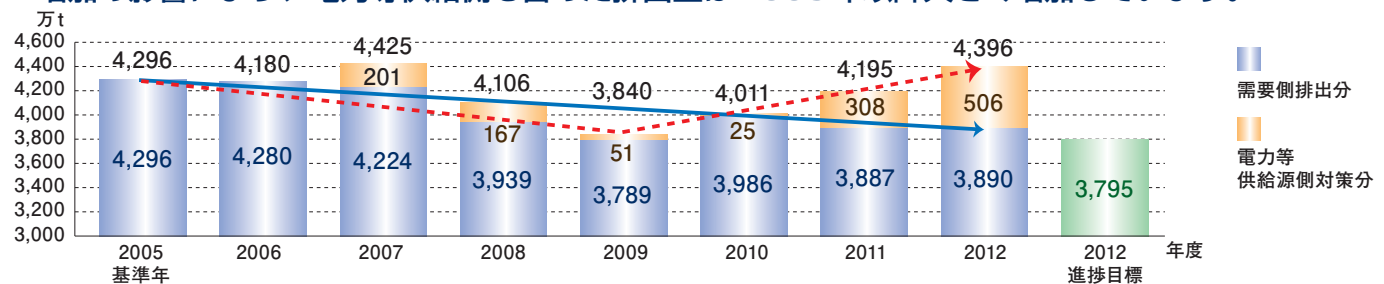


埼玉県では

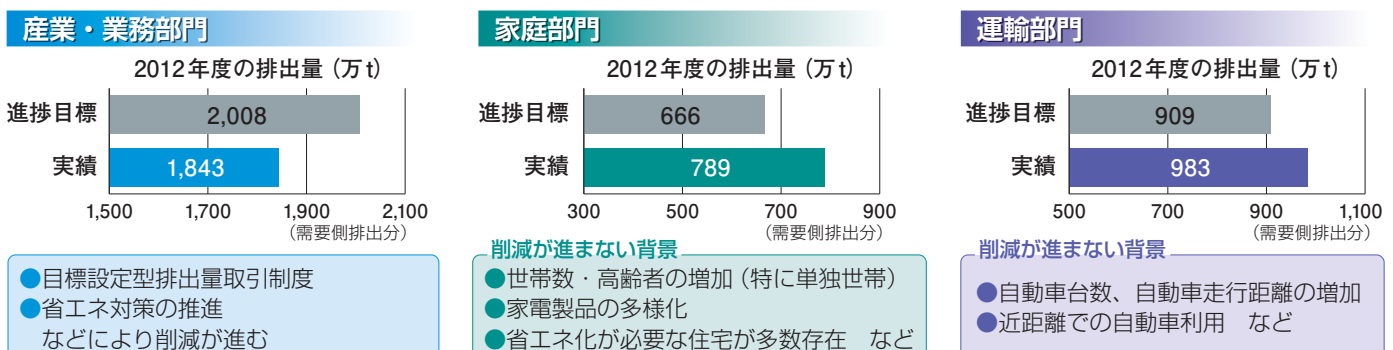


埼玉県の温室効果ガス排出実績

●県民・事業者(需要側)の努力による温室効果ガス削減は着実に進んでいます。一方で、火力発電の増加の影響により、電力等供給側も含めた排出量は2009年以降大きく増加しています。



●部門別の温室効果ガス排出量では、家庭部門及び運輸部門での削減が進んでいない状況です。



目指すべき将来像・計画期間

目指すべき将来像

再生したみどりと川に彩られた低炭素な田園都市の集合体

計画期間

平成21(2009)年度～平成32(2020)年度

削減目標

2020年における埼玉県の温室効果ガス排出量(需要側)を

2005年比 21%削減

毎年の温室効果ガス排出量の公表は、目標達成状況を評価するため「電力需要側だけの排出量」を示します。さらに、地域総ぐるみで一層の排出量削減に向けた協力を求めるために「電力供給側も含めた排出量」も把握・広報します。

計画期間後半 3つの最重点施策

～削減が進んでいない部門における対策の強化と再生可能エネルギーの利用普及～

削減が
進んでいない
部門への対策

最重点1 家庭部門の省エネ化を進める

省エネ技術の進展を活用し、
生活の質を低下させることなく省エネを進めます。

具体的な
取組

- 省エネ家電・設備等の普及促進
- 住宅の省エネ対策の推進
- 環境負荷の少ない住まい方・暮らし方の促進

最重点2 運輸部門の低炭素化を進める

運輸・交通手段の転換を促し、
運輸部門から排出されるCO₂抑制を図ります。

具体的な
取組

- EV・PHVなど次世代自動車の普及促進
- 営業用自動車のエコ化促進
- 自転車活用社会への転換促進

再生可能
エネルギーの
利用普及

最重点3 再生可能エネルギーの活用と産業の発展の好循環をつくる

再生可能エネルギーの活用を進めるとともに、
関連する先端産業発展との好循環を創出します。

具体的な
取組

- 多様な再生可能エネルギーの活用
- 水素社会の実現など分散型エネルギー社会の構築
- 環境・エネルギー分野等の先端産業の育成

温暖化対策の7つのナビゲーション

I 低炭素型で活力ある産業社会づくり

環境に配慮した事業活動を促進するとともに、成長分野の産業育成を支援し、活力ある産業社会を構築します。

主な施策

県内企業の対策促進・支援の充実

- 中小企業ESCO事業の推進 **【新規】**
- 中小企業における省エネルギー対策の促進
- 事業者の省エネルギー・CO₂削減取組の普及啓発 **【新規】** など

大規模事業者への対策

- 目標設定型排出量取引制度の推進 など

低炭素社会をリードする産業の育成

- 先端蓄電システムの研究開発 **最重点3**
- 次世代住宅分野の研究開発 **最重点3** など

II 低炭素型ビジネススタイルへの転換

日常のビジネスの現場のあらゆる場面で低炭素型ビジネススタイルへの転換を進めます。

主な施策

業務・オフィススタイルの見直し

- グリーンITの推進
- グリーン調達の推進
- 3R (Reduce (発生抑制)、Reuse (再使用)、Recycle (再生利用))の推進

建築物・設備の低炭素化

- 新築建物における省エネ・環境性能の向上
- 低炭素建築物新築等計画の認定 **【新規】** など

運輸・物流の低炭素化

- EV・PHVタウン構想の推進 **最重点2**
- 充電インフラの整備促進 **最重点2**
- 次世代自動車利用者への優遇措置の適用 **最重点2**
- EV・PHVバス、タクシーの普及支援 **最重点2**
- 次世代エネルギー「水素」社会の実現 **最重点3**
- 低燃費車導入義務の割合の見直し **最重点2**
- 自転車通行空間、駐輪場の整備 **最重点2**
- 自転車への利用転換に向けた社会の仕組みづくり **最重点2** など

III 低炭素型ライフスタイルへの転換

生活の質を低下させない省エネ化を進めるとともに、CO₂削減行動への動機づけを高めます。

主な施策

ライフスタイルの見直し

- 埼玉 (WEB) 版家庭のエコ診断の推進 **【新規】**
- 省エネ家電の買い替え促進 **最重点1**
- 省エネ設備の導入促進 **最重点1**
- ライフスタイルキャンペーンの推進
- ルームシェア等新たな住まい方の活用 **最重点1**
- 市町村との連携によるクールシェア、ウォームシェア等の普及拡大 **最重点1**
- 省エネ性能の高い住宅の普及促進 **最重点1**
- エコリフォームの普及促進 **最重点1** など

CO₂排出量の「見える化」と削減行動の促進

- エコライフDAY (一日環境家計簿)の推進
- CO₂削減行動を促進するインセンティブの検討 など

Ⅳ 低炭素で地球にやさしいエネルギー社会への転換

快晴日数日本一などの本県の地域特性を生かし、低炭素で地球にやさしいエネルギー社会への転換を促進します。

主な施策

太陽エネルギーの導入促進

- 住宅用太陽光発電の普及促進や大規模太陽光発電の設置促進 **最重点3**
- 避難所や防災拠点等における再生可能エネルギー等の導入支援 **【新規】**
- 農業用貯水池等の太陽光発電への活用 **【新規】**
- 太陽光発電による固定価格買取制度の改善要請 **【新規】**
- 太陽熱利用システムの導入促進 **【新規】** など

多様なエネルギー源の活用

- 次世代エネルギー「水素」社会の実現 **最重点3**
- 分散型エネルギーシステムの埼玉モデルの構築 **最重点3**
- バイオマスエネルギーの普及推進 **最重点3** など

Ⅴ 低炭素で潤いのある田園都市づくり

都市と田園の両方の魅力を備える持続可能な低炭素社会を実現していきます。

主な施策

低炭素型まちづくり

- エコまち法の活用などによる都市の低炭素化の促進 **【新規】**
- ヒートアイランド対策の推進
- 交通需要マネジメントの推進
- 道路照明灯のLED化 **【新規】** など

みどりと川の再生

- 「彩の国みどりの基金」の活用などによる身近な緑の創出
- 清流の復活・安らぎと賑わいの空間創出 など

Ⅵ 豊かな県土を育む森林の整備・保全（CO₂吸収源対策）

林業の振興や県民参加による取組などを通じて、県内の豊かな森林の整備・保全に積極的に取り組みます。

主な施策

- 適正な森林整備の推進
- 「彩の国みどりの基金」などを活用した森林の保全・活用 など

Ⅶ 低炭素社会への環境教育の推進

多様な主体と連携して、子供をはじめとする幅広い世帯を対象とした環境教育・環境学習などを実施します。

主な施策

児童・生徒への環境教育

- 環境に関する体験学習など学校教育における環境学習の充実
- 教員の環境教育指導力向上
- 再生可能エネルギー普及のための高校生地域貢献 **【新規】**

国際協力の推進

- アジア諸国への技術支援
- 海外研究機関との研究交流 など

環境学習の地域展開

- 地球温暖化対策の普及啓発
- 学校から保護者へ、地域へと広がるCO₂削減実践活動の普及促進 など

地球温暖化への適応策

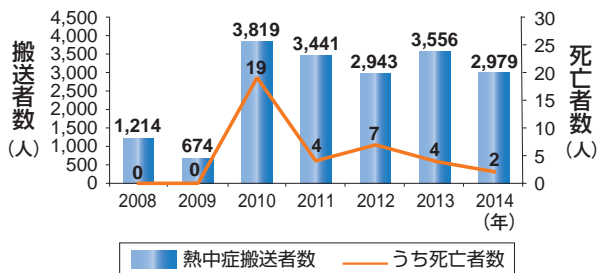
～温暖化の影響への適切な対応。温室効果ガスの濃度を下げる「緩和策」と並行して取り組む～

埼玉県における温暖化の影響

● 農作物の高温障害

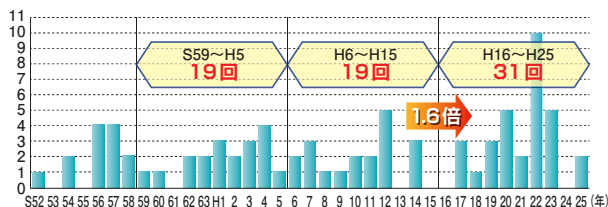
2010年の夏の異常高温により、米に白未熟粒が多発するなど農作物に被害が発生

● 熱中症搬送者数の推移



出典：埼玉県消防防災課データから作成

● 時間雨量50ミリメートル以上の観測回数の増加



出典：気象庁アメダスデータから埼玉県作成

埼玉県の将来の気温上昇予測

今世紀末の気温は20世紀末に比べ最大で4.8℃上昇

図 県内平均気温の変化

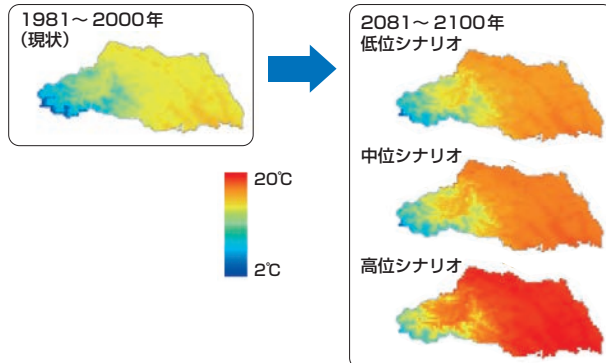


表 県内平均気温上昇

RCPシナリオ	1981-2000年の平均(基準年)	2031-2050年の平均	2081-2100年の平均	基準年に対する上昇(2031-2050年)	基準年に対する上昇(2081-2100年)
低位(RCP2.6)	12.8℃	14.7℃	14.8℃	1.9℃	2.0℃
中位(RCP4.5)	12.8℃	14.6℃	15.5℃	1.8℃	2.7℃
高位(RCP8.5)	12.8℃	14.9℃	17.6℃	2.1℃	4.8℃

出典：環境省環境研究総合推進費 S-8共通シナリオ

主な影響分野における温暖化に伴うリスクと適応策の方向性

農業

農作物の高温障害等の増加

- ・ 高温障害を軽減する農作物栽培管理技術の開発と普及・定着
- ・ 高温耐性品種等の育成・普及 など

健康

熱中症の増加、熱中症による死亡の増加

- ・ ホームページや防災無線、広報車等を活用した注意喚起や熱中症情報の迅速な提供
- ・ 関係機関を通じた高齢者等のリスクの高い方々への声掛け・見守り活動の強化 など

水災害

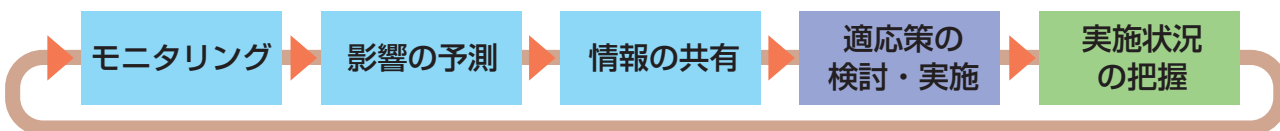
集中豪雨等に伴う内水による浸水リスクの増大

- ・ 下水道整備状況や浸水実績等を踏まえた内水ハザードマップ見直しの促進
- ・ 河川と下水道(雨水)の一体的整備の促進 など

順応的な推進

● 様々な条件を基に対策メニュー検討

● モニタリング結果に応じた段階的事業実施



詳しくは埼玉県ホームページ (<http://www.pref.saitama.lg.jp/>)

「ストップ温暖化・埼玉ナビゲーション2050(改訂版)」のページをご覧ください。

埼玉県 ストップ温暖化 で 検索

平成27年5月発行(平成27年3月改訂)

問い合わせ/埼玉県環境部温暖化対策課 〒330-9301 さいたま市浦和区高砂3-15-1

TEL: 048-830-3037 FAX: 048-830-4777 E-mail: a3030@pref.saitama.lg.jp



古紙配合率100%再生紙を使用しています